

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-5 交通安全対策の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 交通企画課長 田中 明秀 電話番号 0852-26-0110(代)

事務事業の名称	交通事故総量抑制事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	交通安全運動や交通事故の実態などについての広報啓発活動や交通安全教育、各種講習及び交通指導取締り等を通じ県民の交通安全意識の向上を図り、交通事故（特に人身交通事故）を防止する。
事業概要	交通事故の総量を抑制するため、道路利用者に対し、交通事故の発生状況に応じた交通ルールの遵守事項等を周知し、交通安全意識の高揚と安全運転・安全行動の実践を図る。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	人身交通事故発生件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		1,750	1,625	1,500	1,375	
式・定義	同上		実績値	1,863	1,725	1,647	1,583		回
			達成率		98.60	101.40	105.60		%
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	360,717	
うち一般財源(千円)	25,195	

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成27年6月末までの交通事故発生状況は、次のとおりであり、発生件数・負傷者数は減少傾向で推移しているものの、死者数・高齢者死者数については増加傾向で推移している。

発生件数698件（前年比-54件）
死者数16人（前年比+6人）
負傷者数803人（前年比-63人）
高齢者死者数8人（前年比+2人）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年6月末現在の交通事故発生件数は、698件（前年比-54件）、負傷者数803人（前年比-63人）と減少傾向で推移し、交通事故総量の抑制により、負傷者数の減少がみられた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

交通事故死者に占める高齢者死者の割合が依然として高く、高齢者死者数は増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいで推移し、平成27年6月末現在の高齢者死者数は8人と全交通事故死者数の半数を占めるなど、全交通事故死者数減少の阻害要因となっている。

②困っている状況が発生している「原因」

平成27年6月末現在の交通事故死者数は16人と抑止目標を6人上回っており、高齢者死者8人中、横断歩行中が3人（全て夜間）、自動車運転中2人、国道において5人が被害に遭っていることから、これら特徴を踏まえた対策を継続していく必要がある。

③原因を解消するための「課題」

高齢者死者数が依然として多く、発生原因を踏まえ
・横断歩行中の事故防止対策（特に夕暮れから夜間）
・高齢運転者の事故防止対策（特に昼間）
をバランス良く推進していく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

高齢者の交通事故を防止し、交通事故の総量を抑制するため、次の方向で交通事故防止対策に取り組む必要がある。
・横断歩行中の事故防止対策～高齢者の横断歩行中の交通事故は、夕暮れから夜間に掛けて多く発生することから、夜光反射材の貼付活動を展開、高齢者交通安全アドバイザーによるワンポイントアドバイス活動、新歩行環境シミュレータを活用した参加・体験型交通安全講習会の開催、運転免許未取得で講習機会の少ない方に情報発信するための高齢者交通安全個別訪問指導の推進等を継続実施
・高齢運転者の交通事故防止～高齢運転者は、平成24年以降10万人を超え、今後益々増加していく状況にあり、加齢による身体機能の低下に伴い、交通事故の増加が懸念されることから、しまね安全ドライブコンテストへの参加促進、運転免許証の自主返納された方への支援制度の拡充促進等を継続実施

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

交通事故総量抑制を図るためには、高齢者の交通事故防止対策を推進し、高齢者が関係する交通事故を防止することが重要である。過去5年間の高齢者歩行中及び自転車乗用中死傷者670人中、運転免許未取得者は509人と76%を占めることから、特に交通安全講習を受ける機会の少ない、歩行・自転車を交通手段とする高齢者の交通事故防止を図る必要がある。現在推進している高齢者交通安全個別巡回訪問、高齢者交通安全アドバイザーによる高齢者が集まる場所でのワンポイントアドバイス活動を引き続き推進する必要がある。